BOOK REVIEW

日本歯科大学東京短期大学特任教授
歯科衛生士 野村正子



超音波デブライドメントの「なぜやる」と「どうやる」が全部わかる！

月刊「デンタルハイジーン」別冊
超音波デブライドメントの根拠と手技がわかる本
加藤雄大・小森朋栄　編著
AB 判／120 頁／定価 3,960 円（本体 3,600 円＋税 10%）／医歯薬出版（2026 年 5 月）

日本歯周病学会学術大会の歯科衛生士のポスター発表を見ていると，歯周基本治療における歯科衛生士の活躍がありありと感じられます．ステージⅢ，ステージⅣと進行した歯周炎の患者さんの歯周基本治療に，超音波スケーラーと手用スケーラーを併用しながら真摯に取り組む歯科衛生士は，きっと多くの患者さんに感謝されていることでしょう．

本別冊は超音波デブライドメントについて書かれた本でありながら，手用スケーラーによるインスツルメンテーションとの使い分けや，最新の器材であるエアアブレージョンの活用まで網羅されています．これらすべてが，歯科衛生士の行う歯周基本治療から SPT・メインテナンスの流れにおいて必要な手技であることから，きわめて臨床に即した内容だと考えます．

第 1 章の「知識」編では，デブライドメントを「歯の表面や歯周ポケット内の沈着物およびプラークが付着している歯石を，ルートプレーニングやスケーリングでしばしば行われる意図的なセメント質除去をすることなく，除去・破壊すること」と定義しています．これは，歯周治療を実際に行っている歯科衛生士であれば容易に理解できる定義です．しかし，スケーリング，ルートプレーニング，デブライドメントのそれぞれの定義に自信のない方は，いま一度，本別冊で確認していただくことをお勧めします．きっとすっきりと整理できると思います．

続く第 2 章の「手技」編では，超音波デブライドメントの目的を「歯質をできる限り温存しながら，清潔で治癒しやすい環境を構築すること」と，より具体的に記しています．チップの選択に関しても，スケーリング用，デブライドメント用を含め多数あるチップのなかから，除去したい対象物は何か，対象物は歯肉縁上と縁下のどちらにあるのかを認識することが，使い分けのコツだと理解できます．

私は歯周治療終了後の何十年にもわたる長期 SPT・メインテナンスが，超高齢社会における歯科衛生士の主要業務になりつつあると感じています．単なる“お口のクリーニング”目的ではなく，たとえば根分岐部病変の SPT 希望，あるいはインプラントのメインテナンス希望など，明確な目的をもって来院する患者さんは今後増えるでしょう．本別冊はこうした患者さんを担当する歯科衛生士の一助になる 1 冊です．